

写真のエステ 写真作品のつくりかた

Collection Exhibition 2013: The Aesthetics of Photography-The Making of Photographic Works

2013年7月13日[土]～9月16日[月・祝]

会場 東京都写真美術館 3階展示室
主催 東京都 東京都写真美術館
協賛 凸版印刷株式会社

展覧会概要

東京都写真美術館のコレクション展は、平成19年度より毎年テーマを設けて、写真の黎明期から現代作家の作品まで厚みのある約2万9千点の収蔵作品よりご紹介しています。

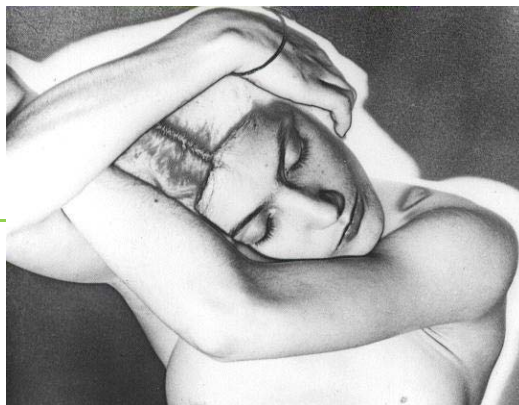
平成23年度「こどもの情景」、平成24年度「技法と表現」に続き、本年度は「写真の美しさはどこにある？」をテーマに「写真のエステ 写真作品のつくりかた」を開催いたします。

「エステ」は、一般に美容術を指す言葉ですが、元々は18世紀ドイツの哲学者バウムガルテンによって提唱された「感性学」を意味する「エステティカ」(Aesthetica)を語源に、近代日本では「美学」として伝わった言葉です。

本展では、作品と関わることによって美を獲得する「鑑賞」を中心軸に、写真における美しさとは何によってつくられるのかを考えます。

写真作品のつくりかたに着目した本展では、「アングル」「焦点」「光のあつかい」「暗室作業」の4つの構成要素を手掛かりに、コレクションの中から選りすぐられた168点をご紹介します。

多様なひろがりを持つ写真表現に触れて、作品を観ること、美しい写真をつくることのヒントを探してみてはいかがでしょうか。



マン・レイ 《眠るモデル》 1929年
ゼラチン・シルバー・プリント

暗室作業において現像処理をある程度行った後に再度光を当てて現像する「ソラリゼーション」。どのような像になるかの想定が難しい不安定な技法を活かし超現実的な雰囲気を生み出している。[Chapter4:暗室作業]より



奈良原一高
《静止した時間 #95》
「静止した時間」より 1964年
ゼラチン・シルバー・プリント

強いに陽射しによって生まれた影を画面に効果的に取り入れている。光は影をあつかうことでもある。[Chapter3:光のあつかい]より

展示構成

Chapter1 : アングル

Chapter2 : 焦点

Chapter3 : 光のあつかい

Chapter4 : 暗室作業

展示作品数

168点

出品作品はすべて東京都写真美術館のコレクション作品です。

1. 写真の美しさを作る4つの要素

一枚の写真は、画面の切り取りかた、ピントの合わせかた、光の加減、暗室での現像作業など、様々な要素によって構成されています。写真をつくるうえで重要な「アングル」「焦点」「光のあつかい」「暗室作業」の4つの要素に着目し、写真の美しさが何によってつくられているのかを考えます。

①アングル

植田正治 題不詳 1955-1970年頃
ゼラチン・シルバー・プリント



ココがポイント！

被写体を高いアングルから捉えている。傘の大きさとこどもの小ささを対比させることで、被写体の幼さや愛らしさを引き立てている。

②焦点

秋山庄太郎《吉永小百合》1960年頃
「昭和の美女」より ゼラチン・シルバー・プリント



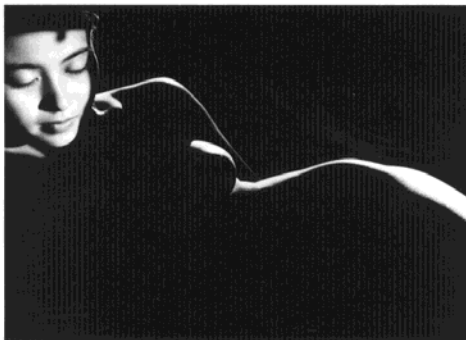
ココがポイント！

ソフトフォーカスによって焦点を和らげることで、女性の相貌と手に持つ薔薇の花の美しさを強調し、神秘性を与えている。

©秋山庄太郎写真美術館

③光のあつかい

福田勝治《光る女体》1949年
ゼラチン・シルバー・プリント



ココがポイント！

光がなぞる曲線と面の対比が面白い。光は線と面を描き出し、その強弱はモノクロ写真における白と黒を生む。

④暗室作業

ウィリアム・ユージン・スミス
「日本…イメージの1章」より 無題
1961-1962年頃 ゼラチン・シルバー・プリント



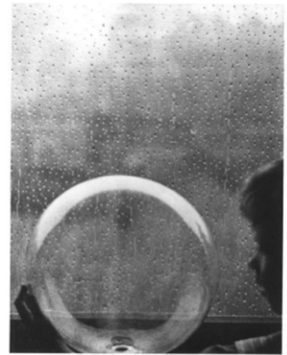
ココがポイント！

「撮影で言い切れなかった部分を暗室のテクニックを使って表現するんだ」とユージン・スミスが述べるように、このプリント作業は焼き込み、覆い焼き、多重露光とさまざまな技術が駆使される。

2. 写真上達のヒントが満載！「撮る」を「みる」から考える。

写真というメディアは本当に多様で深い心地よさを与えてくれる。
このひろがり、楽しさ、豊かさを感じるからこそ写真作品を作る
一歩だと僕は信じている。 学芸員 三井圭司 (写真のエッセイ 図録テキストより)

近年ではSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などを通じて個人が撮影した写真を発表する場がひろがり続けています。発表する写真をグレードアップさせるには、多様な写真表現をみて、テクニックや作家の感性を真似てみることもひとつの効果的な方法でしょう。アングルの決めかたなどはすぐにでも実践できる写真のテクニックのひとつです。写真家たちのテクニックが冴える約150点の出品作品から、わたしたちが撮影する際にも役立つ写真撮影のヒントが満載です。



クラレンス・ホワイト
《雨のしずく》1908年頃
フォトグラビア印刷

窓の水滴がフォーカスされ、手前の球体と最背面にあるガラス窓の質感の対比が強調されている。[Chapter3:光のあつかい]より

3. 夏休みの鑑賞教育にぴったり！



本展では展覧会を構成した学芸員が、写真作品ならではの鑑賞のポイントを、わかりやすく解説します。

写真の知識を問わず、こどもからおとなまでお楽しみいただけます。自分とは異なる他者の感性にふれることで引き出される感覚のひろがりや、家族や友人と語り合う鑑賞教育の場としてお楽しみ下さい。あたらしい感性をひらく写真作品との出会いがあることでしょう。

須田一政
《秋田・湯沢》「風姿花伝」より 1976年
ゼラチン・シルバー・プリント

ひまわりと少女たちに光を集め、さらに背景を黒く焼き込むことで夏の強い陽射しを思わせ、季節感と少女たちの明るい表情を際立たせている。[Chapter3:光のあつかい]より

東京都写真美術館コレクションについて

本コレクション展はすべて東京都写真美術館の収蔵作品から構成しています。当館では写真の黎明期から現代までの質の高い写真と映像に関する作品を毎年収集し、現在29,613点(国内写真作品18,812点、海外作品5,480点、映像作品2,318点、写真資料3,003点)を収蔵しています。本展は数ある収蔵作品のなかでも登場回数少ない、知られざる作家や名品をご紹介します貴重な機会です。

本展出品作家の吉崎一人は確かな技術力を持つ写真家ですが、生涯の作品点数が非常に少なく、これまで個展開催の機会に恵まれませんでした。今回、満を持して登場する吉崎一人の光溢れる作品にご注目ください。



吉崎一人
《嬉戯其二》1938-1941年頃
ゼラチン・シルバー・プリント

出品作家

秋山庄太郎、植田正治、川田喜久治、北島敬三、木村伊兵衛、木之下晃、須田一政、東松照明、中村征夫、奈良原一高、林忠彦、福田勝治、福原路草、細江英公、三木淳、森山大道、吉崎一人、アンセル・アダムス、ウィリアム・ユージン・スミス、ギュスターヴ・ル・グレイ、クラレンス・ホワイト、ジュリア・マーガレット・キャメロン、フェリーチェ・ベアト、マイナー・マーティン・ホワイト、マン・レイ、ラスロ・モホイ＝ナジ、ロバート・キャパほか

展覧会関連イベント／ワークショップ

■担当学芸員によるフロアレクチャー

会期中の第2、第4金曜日の14時より担当学芸員の展示解説を行います。
※本展覧会の半券（当日有効）をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

■展示をめぐるトークセッション

他館学芸員と出品作家を招き、担当学芸員と「写真作品のつくりかた」について展示室でトークセッションを開催します。

7月27日（土） 16:00-17:30 井口 芳夫（日本カメラ博物館学芸員）

8月 3日（土） 16:00-17:30 北島 敬三（写真家）

※本展覧会の半券（当日有効）をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

■ソラリゼーションワークショップ

マン・レイをはじめとする写真家たちが好んで用いた技法を参加者が持参するデジタル画像からデジタルネガを作成し、ソラリゼーション技法により、暗室でモノクロ銀塩写真を制作します。

【Aコース】8月17日（土）10:30～17:00 【Bコース】8月18日（日）10:30～17:00

定員：各日11名／参加費：一般 5,000円、学生 4,000円／応募締切：2013年8月12日（月）12:00必着

■大人のための暗室体験 フォトグラムワークショップ

暗室内で、さまざまな物体の影や形を印画紙上に直接感光させ現像を行います。カメラを使わずに白黒写真の現像プロセスを体験できる技法です。

【Aコース】8月31日（土）10:30～15:30 【Bコース】9月1日（日）10:30～15:30

定員：各日20名／参加費：一般 4,000円、学生 3,000円／応募締切：2013年8月12日（月）12:00必着

※各ワークショップの詳細はホームページにてご確認ください。

次回展覧会予告／公式ガイドブックのご案内

平成25年度は「写真の美しさはどこにある？」をテーマに、コレクションをご紹介します。

2013年9月21日（土）－11月17日（日）「写真のエステ コスモス－写された自然の形象」

「写真のエステ」カタログ 東京都写真美術館発行 1,400円（税込）

本展の開催にあわせて、「写真のエステ」各展より代表的な作品図版を掲載した公式ガイドブックを東京都写真美術館ミュージアムショップで販売しています。

開催概要

展覧会名：写真のエステー写真作品のつくりかた
Collection Exhibition 2013:
The Aesthetics of Photography The Making of Photographic Works

会 期：平成25年7月13日(土)～9月16日(月・祝)

会 場：東京都写真美術館 3階展示室
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
ホームページ www.syabi.com Tel: 03-3280-0034 Fax: 03-3280-0033

開館時間：10:00～18:00
※木・金は20:00まで。ただし7月18日から9月27日までの木・金は21:00まで
※入館は閉館の30分前まで

休 館 日：毎週月曜日(7月15日と9月16日は開館。7月16日は休館)

観 覧 料：一般 500 (400) 円／学生 400 (320) 円／中高生・65歳以上 250 (200) 円
※()は20名以上団体料金
※東京都写真美術館友の会会員、小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料

交通機関：JR恵比寿駅東口より徒歩約7分／東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分
※当館には専用の駐車場がございません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

お問い合わせ

東京都写真美術館

電話：03(3280)0034 FAX：03(3280)0033

展覧会担当 三井 圭司 k.mitsui@syabi.com 武内 厚子 a.takeuchi@syabi.com

広報担当 久代 明子 a.kushiro@syabi.com 平澤 綾乃 a.hirasawa@syabi.com

前原 貴子 t.maehara@syabi.com

プレス掲載用に図版データをご用意しています。上記広報担当までお問い合わせください